

平成30年度 第二期子ども・子育て支援事業計画 策定に向けた利用ニーズ把握のための調査報告書 (概要版)

■調査の目的

子ども・子育て支援給付や地域子ども・子育て支援事業の提供体制の確保等を行うための計画である「第二期鹿児島市子ども・子育て支援事業計画」の策定に向け、市民の子育てに関するニーズを把握し、計画づくりの基礎資料とするため実施した。

■調査区域

鹿児島市全域

■調査対象

小学校就学前児童の保護者 : 4,000人
小学校児童の保護者 : 1,500人
母子健康手帳交付者（第一子のみ） : 139人

■調査期間

平成30年11月14日から12月6日まで

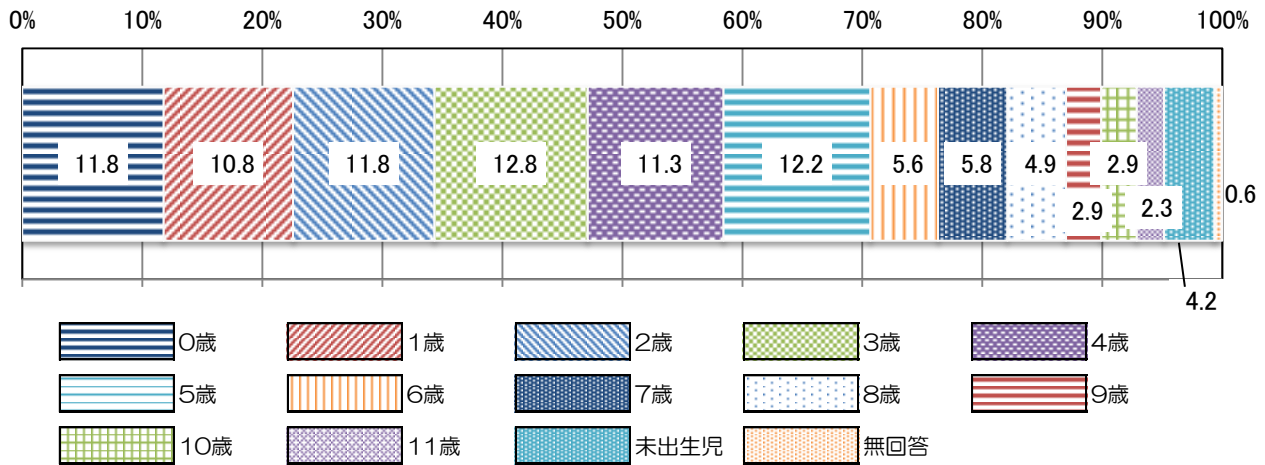
■回収結果

	対象者	配布数	回答数	回答率
①	小学校就学前児童の保護者	4,000人	3,022人	54.9%
②	小学校児童の保護者	1,500人		
③	母子健康手帳交付者（第一子のみ）	139人	133人	95.7%
	合計	5,639人	3,155人	55.9%



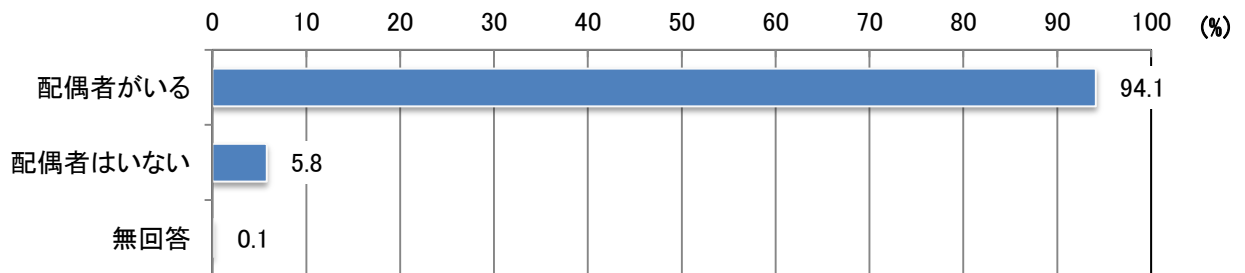
子どもの年齢について

0歳～5歳までの数が全体の70.7%を占めており、かつそれぞれの数が10%程度であり、大きな差はみられない。6歳～11歳は全体の24.4%である。



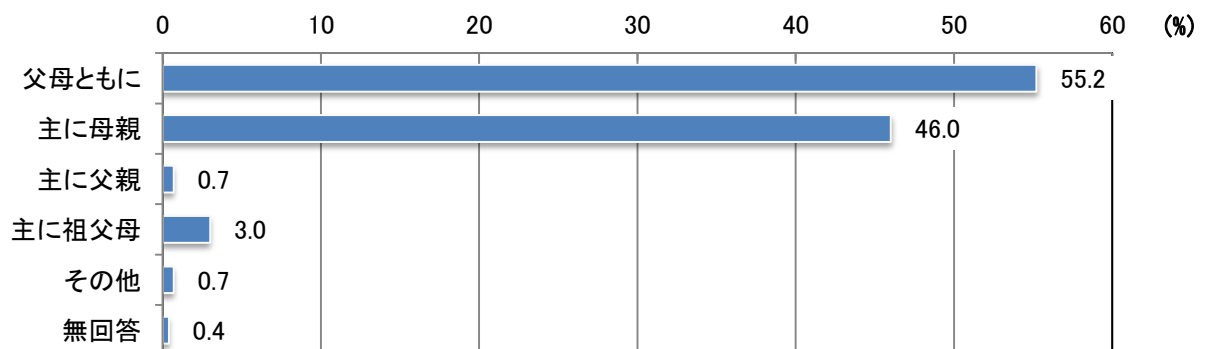
配偶者の有無について

「配偶者がいる」が94.1%であり、「配偶者はいない」は5.8%である。



子どもの子育てを主に行っている人について（複数回答）

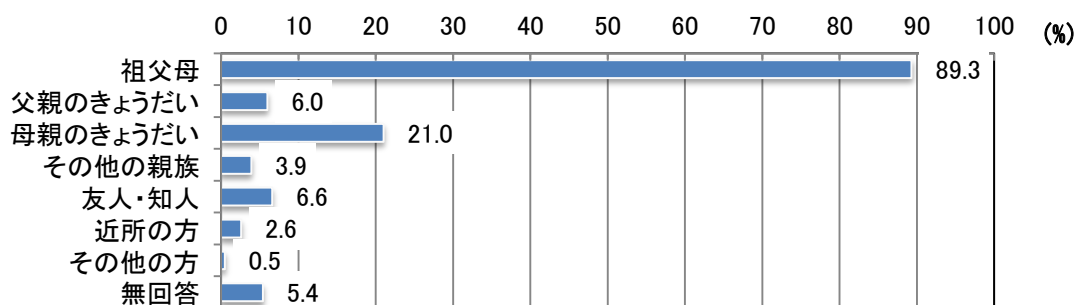
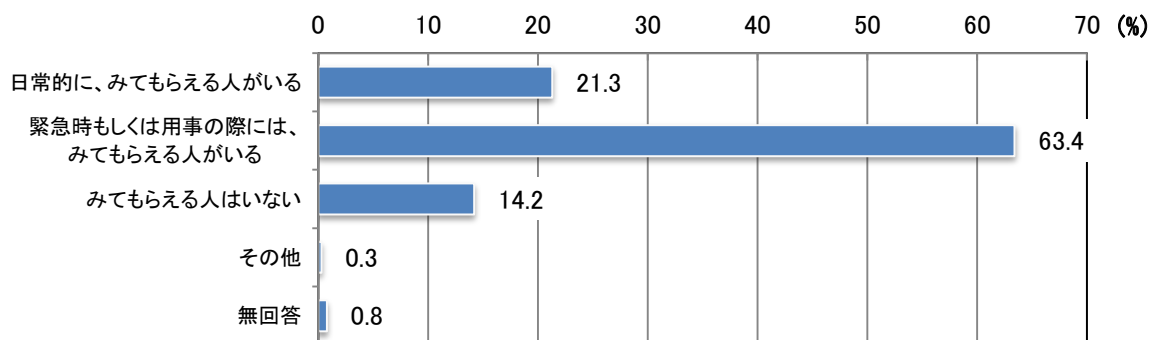
「父母ともに」行っているが55.2%と最も多く、次いで「主に母親」が46.0%である。



子どもを見てもらえる親族・知人について

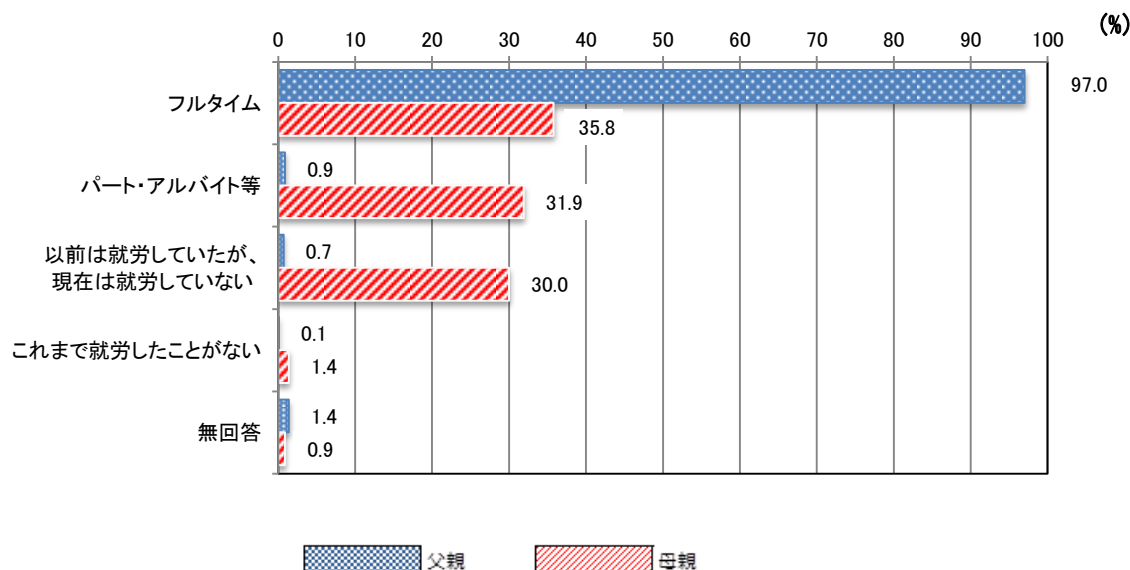
「緊急時もしくは用事の際にはみてもらえる人がいる」が63.4%と最も多く、次いで「日常的にみてもらえる人がいる」が21.3%、「みてもらえる人はいない」が14.2%であり、日常的にみてもらえる状況は少ない。

預かってもらえる続柄では、「祖父母」が89.3%と最も多く、次いで「母親のきょうだい」は21.0%と、親族にみてもらう割合が高い状況である。



父親・母親の現在の就労状況について

父親は「フルタイム」が97.0%と最も多く、母親も「フルタイム」が35.8%と最も多くなっている。

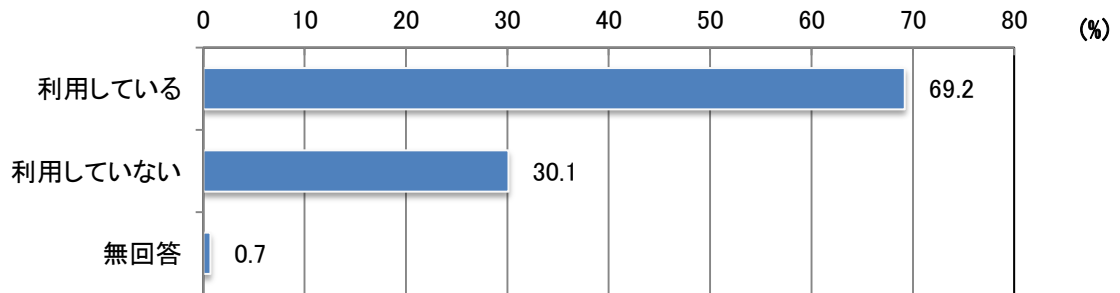


子どもの定期的な教育・保育の事業の利用について

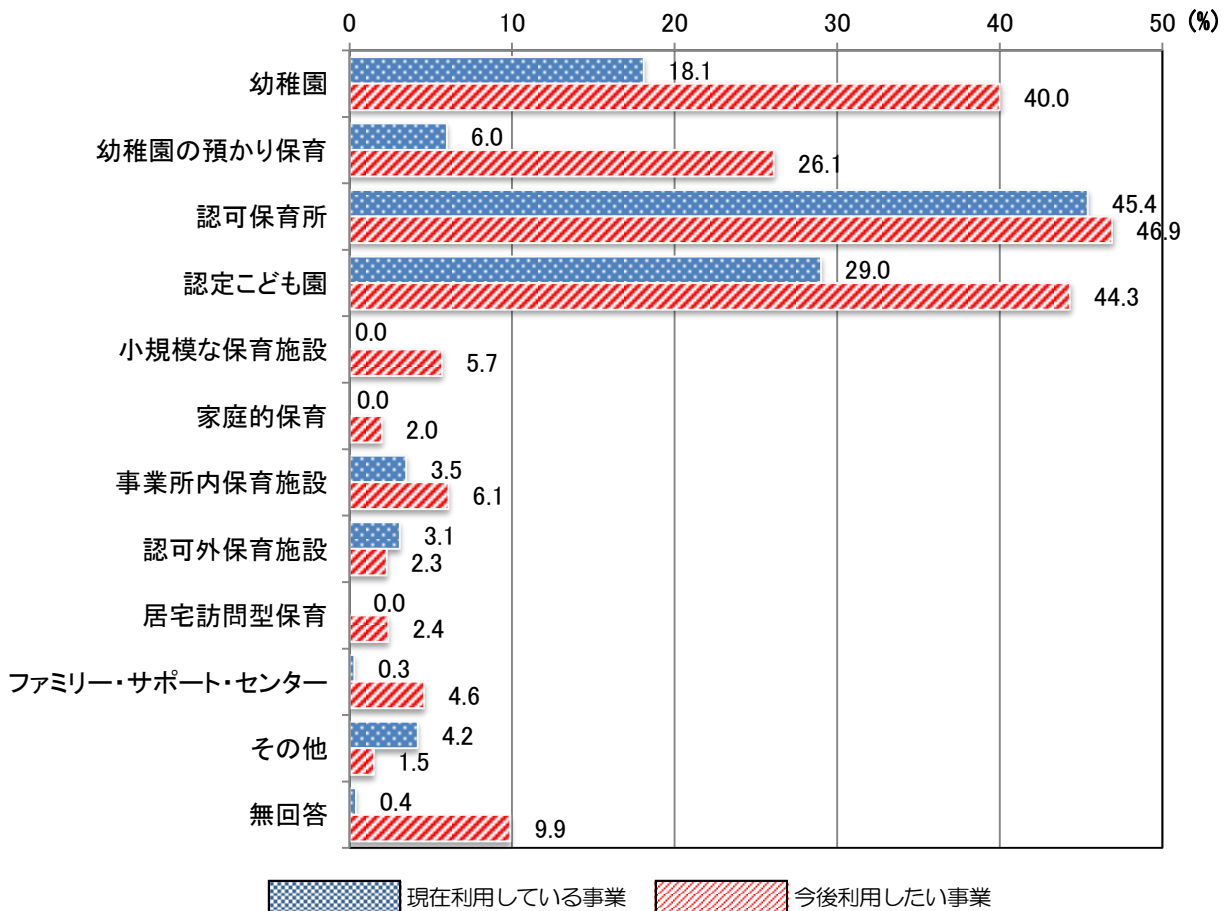
定期的な教育・保育の事業を「利用している」が69.2%で、「利用していない」は30.1%である。

現在利用している教育・保育事業では、「認可保育所」が45.4%と最も多く、次いで「認定こども園」が29.0%である。

今後利用希望する教育・保育事業では、「認可保育所」が46.9%と最も多く、次いで「認定こども園」が44.3%である。

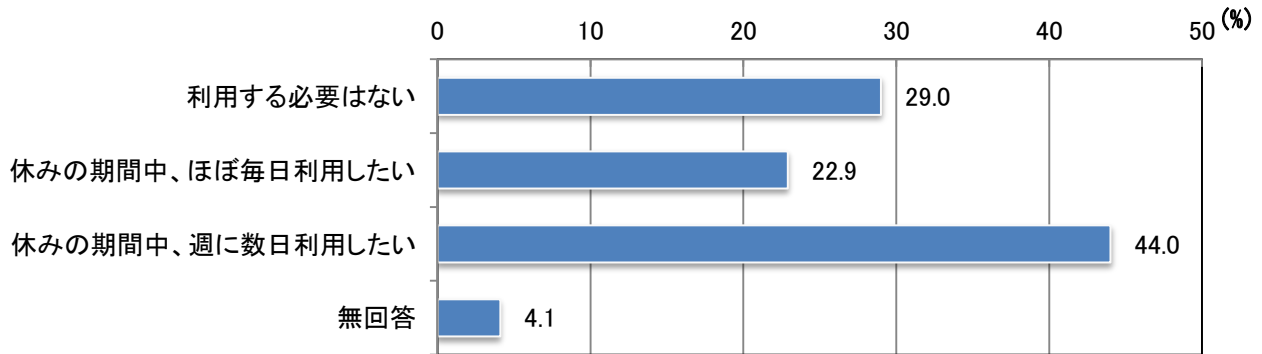


■現在利用している及び今後利用希望する教育・保育事業（複数回答）



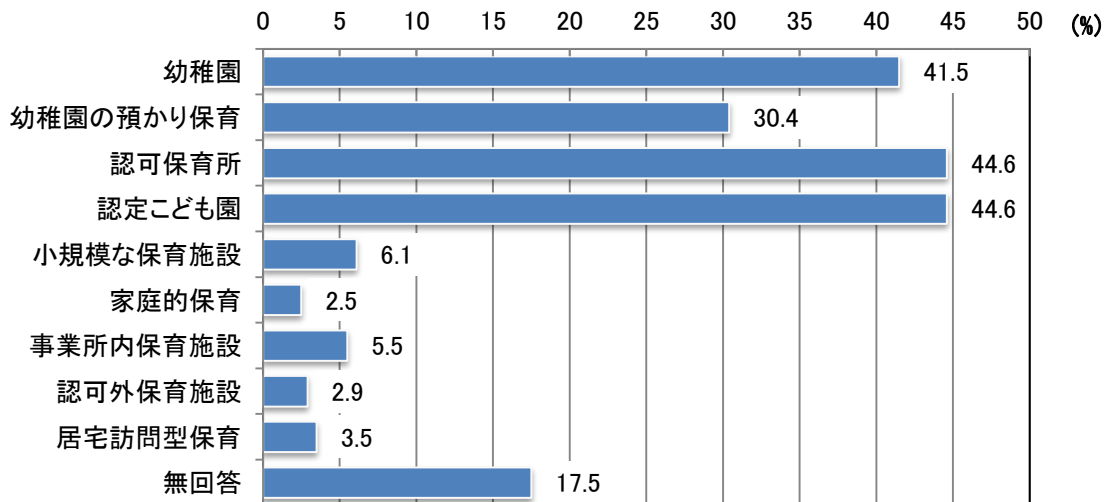
長期休業中の幼稚園の事業の利用希望について

「休みの期間中、週に数日利用したい」が44.0%で、次いで「利用する必要はない」が29.0%であるが、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が22.9%であり、休みの期間中の利用希望は合わせて66.9%と全体の7割弱である。



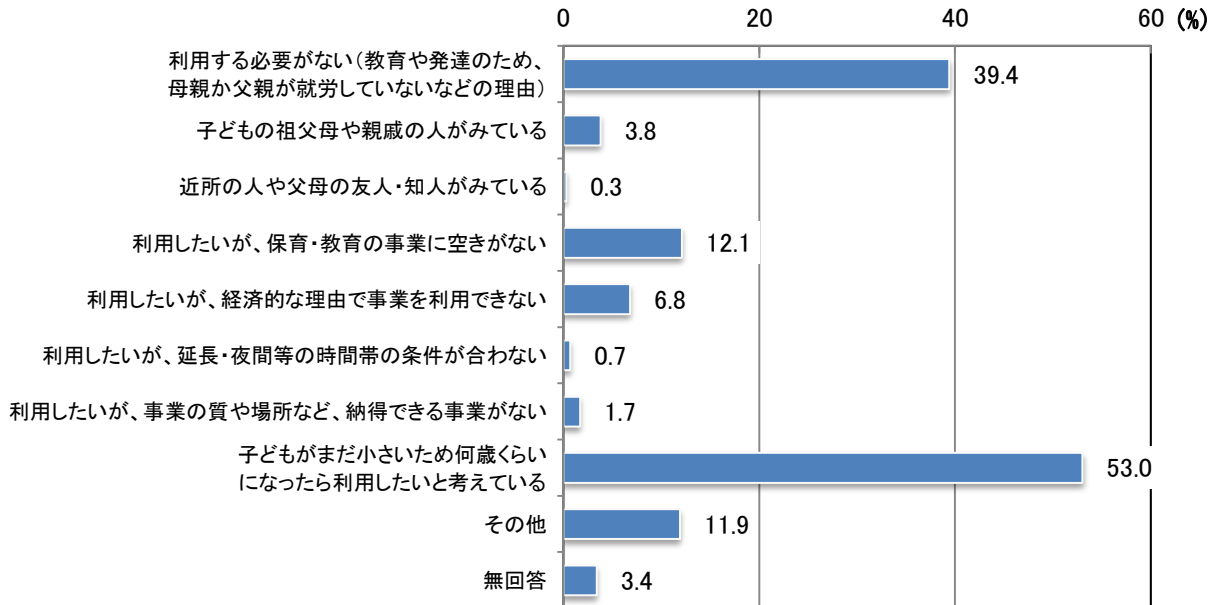
幼児教育が無償化された場合、「定期的に」利用したいと考える事業（複数回答）

「認可保育所」、「認定こども園」がともに44.6%と最も多く、次いで「幼稚園」(41.5%)となっている。



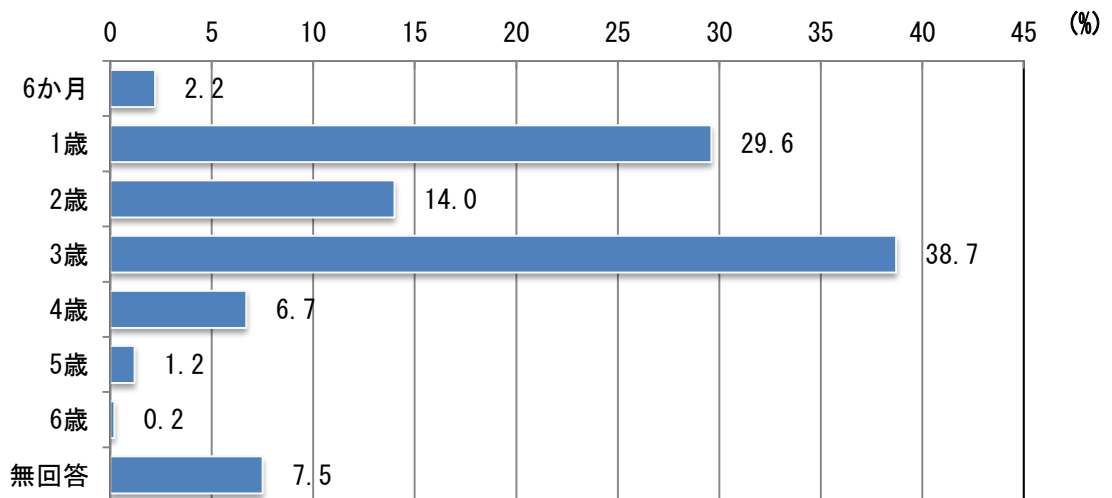
教育・保育事業を利用していない理由（複数回答）

「子どもがまだ小さいため（何歳くらいになったら利用したいと考えている）」が53.0%と最も多く、次いで「利用する必要がない」が39.4%である。



■定期的な教育・保育の事業の利用を希望する子どもの年齢について

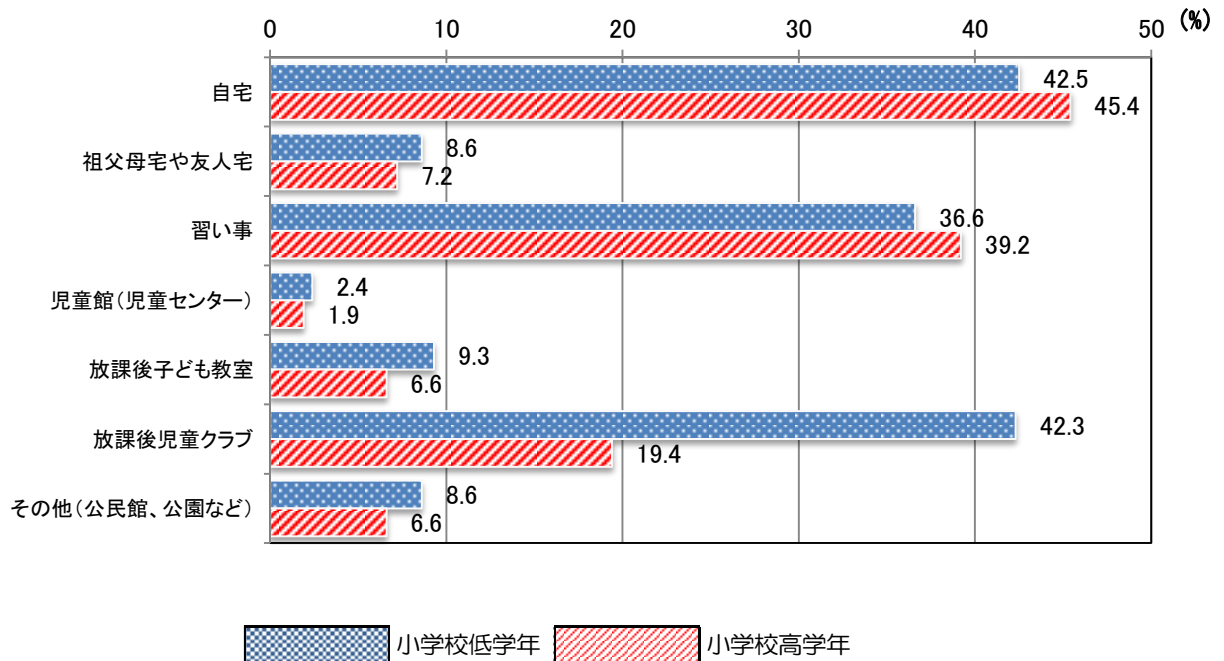
「子どもがまだ小さいため（何歳くらいになったら利用したいと考えている）」では、「3歳」が38.7%と最も多く、次いで「1歳」が29.6%、「2歳」が14.0%と続く。



小学校就学後の放課後の過ごさせたい場所について（複数回答）

小学校低学年では「自宅」が42.5%と最も多く、次いで「放課後児童クラブ」が42.3%である。

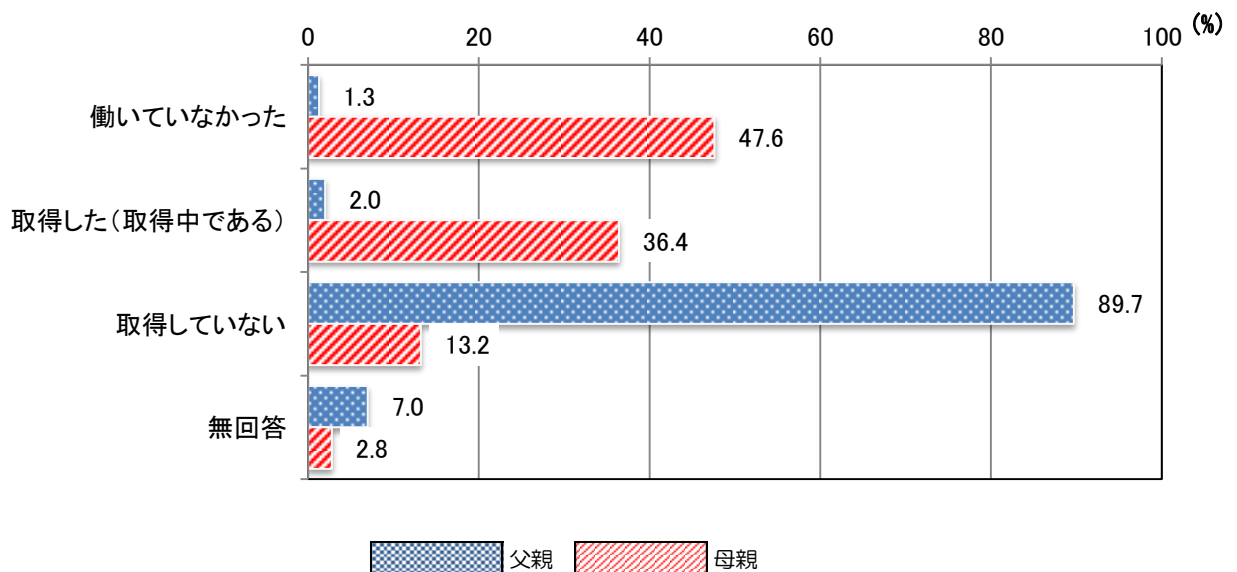
小学校高学年では「自宅」が45.4%と最も多く、次いで「習い事」が39.2%である。



誕生時の父母の育児休業取得の有無

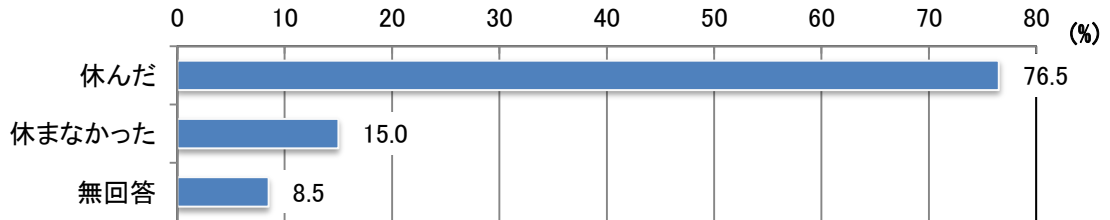
父親は「取得していない」が89.7%で、「取得した(取得中である)」は2.0%、「働いていなかった」が1.3%である。

母親は「働いていなかった」が47.6%で、「取得した(取得中である)」は36.4%である。



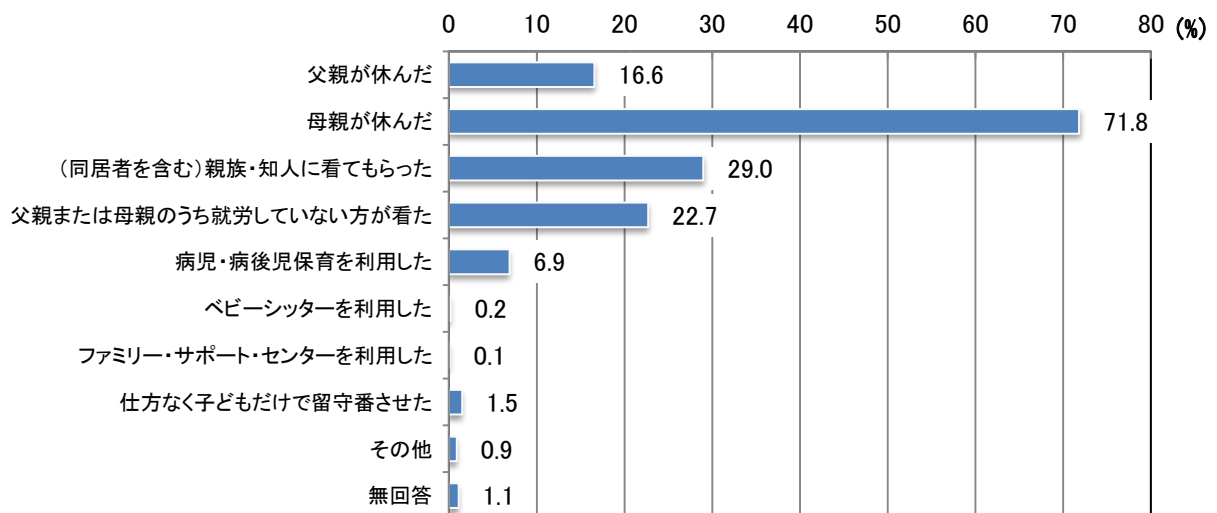
子どもが病気やケガで休んだ有無について

幼稚園、保育園、小学校などを「休んだ」が76.5%で、「休まなかった」は15.0%である。



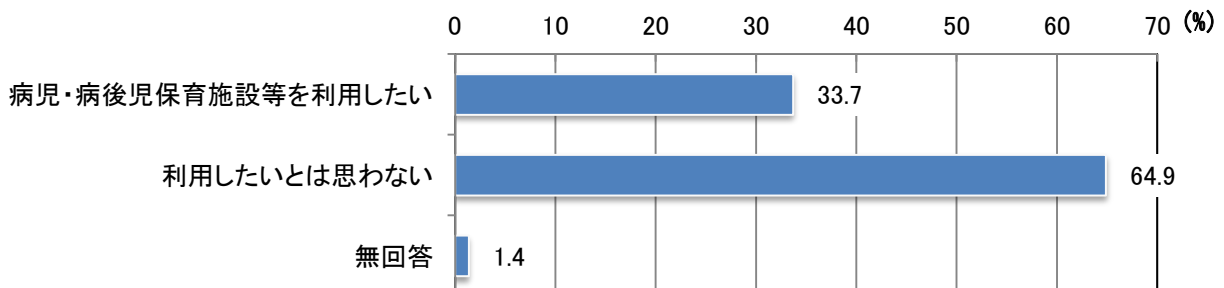
子どもが休んだ時の対処方法について（複数回答）

「母親が休んだ」が71.8%と最も多く、次いで「（同居者を含む）親族・知人に看てもらった」が29.0%、「父親または母親のうち就労していない方が見た」が22.7%と続き、「父親が休んだ」は16.6%である。



病児・病後児保育の希望について

「利用したいと思わない」が64.9%で、「病児・病後児保育施設等を利用したい」が33.7%である。



地域の子育て支援拠点事業の認知、利用の有無、希望について

認知度として「すこやか子育て交流館（りぼんかん）」が86.5%と最も多く、次いで「親子つどいの広場」が84.0%、「ふれあい子育てサロンなど」が74.1%と続く。

利用度では「すこやか子育て交流館（りぼんかん）」が64.9%と最も多く、次いで「親子つどいの広場」が59.7%、「未就園児教室」が36.1%である。

今後利用したい施設・事業では、認知度と現在の利用度共に割合の高い「すこやか子育て交流館（りぼんかん）」が57.3%と最も多く、次いで「親子つどいの広場」が55.0%である。

